

ロゼッタ、上期は計画比で大幅未達 翻訳業界の“破壊的イノベーション”への対応を図る

2017年10月18日に日本証券アナリスト協会で開催された、株式会社ロゼッタ2018年2月期第2四半期決算説明会の内容を書き起こしでお届けします。

2018年2月期上半期 決算ハイライト

2018年2月期上半期 決算ハイライト



- ①2018年2月期上半期の連結業績は、会社計画対比で売上高90.0%、経常利益37.5%と未達。
未達の主要因は、計画通り先行投資的に費用を大幅に増加させたが、売上の伸びが追いつかなかったこと。
- ②セグメント別では、MT事業及びクラウドソーシング事業の売上未達が大きい。
- ③自社開発は順調ながらも、翻訳業界のパラダイムシフトに対応するべく、戦略の方向転換を急ピッチで展開。

五石順一氏 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。それではさっそくご説明をさせていただきます。まず2018年2月期上半期の連結業績は、会社計画対比で売上高90.0パーセント、経常利益37.5パーセントと未達となっております。未達の主要因は、今回、計画どおり経費は増額しているのですが、売上が計画どおり伸びていないことが原因になります。セグメント別に言いますと、MT事業及びクラウドソーシング事業の売上未達が大きいです。自社開発は順調ながらも、翻訳業界のパラダイムシフトに対応するべく、戦略の方向転換を急ピッチに展開しております。この部分がわかりにくいとは思いますが、自社開発は順調に進んでおります。以前から来ていただいている方はご存知だと思っておりますが、去年の春からニューラルネットワークを使った機械翻訳の開発を始めております。その後、ニューラルネット

ワークのチームを採用して、組織して、現在は9名のニューラルネットワークの技術者がおります。けっこうレベルが高くて、世でよく知られている海外のシステム系・IT系企業や国内のトップメーカーから、あとはアカデミックなところから採用されています。この開発は順調にしているのですが、翻訳業界のパラダイムシフトのところ。我々は去年の春から開発しているのですが、先に世界で最も大きなAI企業によるニューラル翻訳が、去年の秋から暮れにかけて出てきました。それにより、このニューラルネットワークの翻訳精度がものすごく上がっている。その翻訳精度の飛躍的な伸びで、翻訳業界・産業のあり方自体が大きく急速に変わりつつあるということなのです。

2018年2月期上半期 連結損益計算書

2018年2月期上半期 連結損益計算書

株式会社ロゼッタ

(単位：百万円)

	2017年2月期 第2四半期累計	2018年2月期 第2四半期累計	前年比	会社計画	計画比
売上高	851	994	116.8%	1,105	90.0%
売上原価	385	439	114.0%	496	88.5%
売上総利益	466	555	119.1%	609	91.2%
販売費及び一般管理費	367	522	142.3%	520	100.4%
営業利益	99	33	33.4%	88	37.4%
経常利益	99	33	33.3%	88	37.5%
四半期純利益	58	7	13.3%	47	16.5%

Copyright © Rozetta Corp. All rights reserved.

3

具体的な数字でございます。売上高は前年比で116.8パーセントということで、16パーセント売上が伸びております。ただしこの売上の伸びには、去年M&Aをした株式会社エニディアの売上も入っていますので、既存のMT事業やGLOZE事業、翻訳・通訳事業などの伸びで見ると微増でしかなく、基本的にはほぼ横ばいというかたちです。

2018年2月期上半期 販管費 前年同期比較

2018年2月期上半期 販管費 前年同期比較

株式会社ロゼッタ

(単位：百万円)

	2017年2月期 第2四半期累計	2018年2月期 第2四半期累計	前年差	前年比	計画比
販売費及び 一般管理費	367	522	+155	142%	100.4%
人件費	248	316	+68	127%	100.5%
広告費	36	43	+7	118%	106.1%
家賃	9	14	+5	158%	90.3%
採用費	2	21	+19	717%	93.0%
支払手数料	21	34	+13	162%	103.9%
のれん償却	3	33	+30	1,011%	100.0%
その他	44	59	+15	133%	99.5%

Copyright © Rozetta Corp. All rights reserved.

4

売上高で見ると(前年比)116.8パーセントなのですが、販管費がものすごく増えており、前年比142パーセントでございます。こちらは計画比が100.4パーセントですので、計画どおりです。つまり、今回の大幅な利益の未達は、売上が減ったからではなく、費用だけがどんと伸びたことによる減額。営業利益の前年比減額という感じです。

セグメント別売上高 前年同期比較

セグメント別売上高 前年同期比較



セグメント別売上高の前年同期比較でございます。MT事業は1億1,100万円から1億2,800万円。GLOZE事業は2億1,300万円から2億1,800万円。緑色は去年M&Aをした株式会社エニドアのクラウドソーシング事業で、去年はありませんでしたので、先ほど言いました売上の増加分は、こちら(クラウドソーシング事業)の部分が大きいということです。それ以外の事業は、ほぼ横ばいという状態です。

2018年2月期上半期 セグメント別売上高

2018年2月期上半期 セグメント別売上高

(単位：百万円)

		2017年2月期 第2四半期累計	2018年2月期 第2四半期累計	前年比	構成比
新規事業	MT事業	111	128	116%	
	GLOZE事業	213	218	103%	45%
	クラウド ソーシング事業	—	103	—	
既存事業	翻訳・通訳事業	422	430	102%	55%
	企業研修事業	105	114	109%	
合計		851	994	117%	

セグメント別の売上高でございます。(MT事業が前年比)116パーセント、(GLOZE事業が前年比)103パーセント、(翻訳・通訳事業が前年比)102パーセント、(企業研修事業が前年比)109パーセントとそれぞれ増えてはおりますが、一番大きいのはクラウドソーシング事業です。

セグメント別営業利益 前年同期比較

セグメント別営業利益 前年同期比較



セグメント別の営業利益でございます。売上は全体的に微増ではあるものの、先ほど言いました、販管費を増やしているために、全般的な利益で言うと、MT事業やGLOZE事業、翻訳・通訳事業、企業研修事業は下がっている状態です。

2018年2月上半期 セグメント別営業利益

2018年2月期上半期 セグメント別営業利益

(単位：百万円)

		2017年2月期 第2四半期累計	2018年2月期 第2四半期累計	前年比
新規事業	MT事業	20	12	62%
	GLOZE事業	24	18	78%
	クラウド ソーシング事業	-	△34	-
既存事業	翻訳・通訳事業	66	53	80%
	企業研修事業	9	18	195%
	調整額	△21	△35	-
合計		99	33	33%

企業研修事業は少し上がっていますが、全体に対する利益は小さいということです。大きいのは、クラウドソーシング事業が一番足を引っ張っているというところがございます。冒頭で言いました、パラダイムシフトのところ、一番直撃を受けているのはクラウドソーシング事業です。

MT事業・GLOZE事業 受注高推移

MT事業・GLOZE事業 受注高推移



受注高推移もほぼ横ばいです。受注高というのは、売上に転化する前のリアルタイムの受注高ですが、MT事業は微増、GLOZE事業は下がって、合わせてほぼ横ばいという状態です。

市場の現状と見通し①

翻訳業界で突然始まる産業革命的パラダイムシフト

NMT(Neural Machine Translation)により
自動翻訳の精度が突如かつ劇的に向上



わかりにくい部分で、「パラダイムシフトって何なんだ?」というところですが、今、ほとんどの翻訳は人間によって行われております。機械翻訳はほんの一部でしかなく、今後の将来に向けて、だいたい10年の期間で見えていましたが、徐々に機械が果たす役割の比率が大きくなって、最終的には逆転して、翻訳はほぼ機械がやって人間は少しだけやると。この流れが今まではゆっくり進行していたのですが、今、NMT(Neural Machine Translation)が出てきて、今年一気に加速しました。本当に一気にです。産業革命のように10年20年もかけてではなく、この1年の間に一気に起こりつつあるという異常事態です。

市場の現状と見通し②

イノベーションによる市場破壊

翻訳市場から消滅

無料翻訳サイトに出しても構わない原稿
読んで概要が知りたいだけが目的の翻訳
産業翻訳レベルの精度が要求されない翻訳

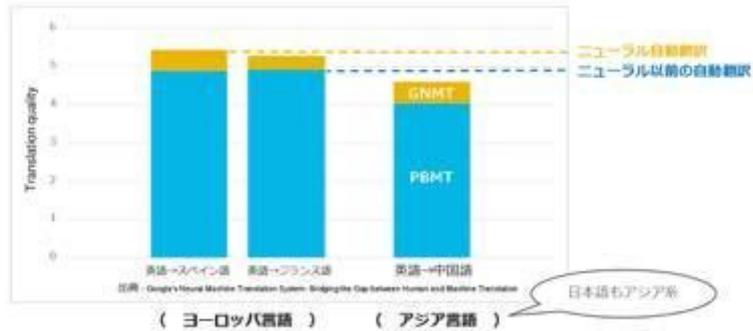
今後、翻訳市場は縮小していくのか？

このニューラル翻訳というのは、いわゆる破壊的イノベーションです。既存の業態を破壊していく側面を持っていて、イノベーションによる市場破壊があるということです。どのような部分が破壊されるかというと、まず無料翻訳サイトに出してもかまわないような原稿。読んで概要を知りたいだけの原稿。産業翻訳レベルの精度が要求されない翻訳です。産業翻訳レベルというのは、弊社でいうところの翻訳事業です。ニューラル翻訳をやっているところはダンピングどころの話ではなく無料ですので、(産業翻訳レベルの精度が要求されない翻訳が)バツサリと消えつつあるということです。そこで問題になってくるのは、今後、翻訳市場全体が消えていくのではないかという疑問です。

市場の現状と見通し③

実は答えが出ている

欧米言語間では、日本語より先に数年前から実用レベルの翻訳精度だった

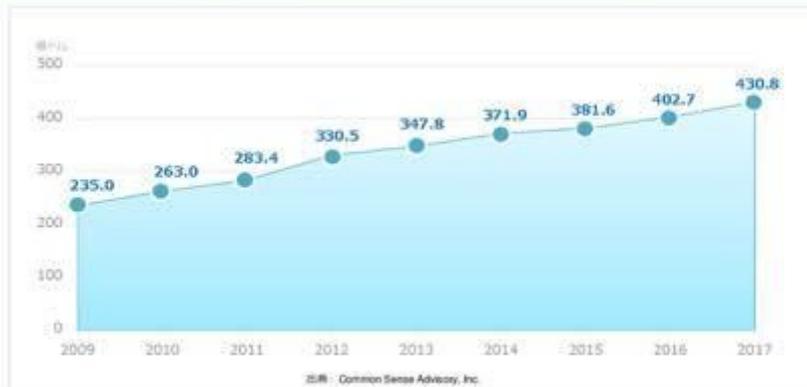


つまりグローバル翻訳市場の過去推移を見れば、
これから日本の翻訳市場がどうなるかが見える

「このままいったら人間はいらなくなるのではないか？」とか、「産業翻訳は大事だから機械なんかには任せられない。やっぱり人間が残るよ」など、いろいろな意見はあるのですが、実は答えが出ています。なぜ出ているかというと、この水色のグラフは、ニューラル翻訳が出る前の統計的機械翻訳、業界内ではSMTと言いますが、そちらの翻訳の精度です。黄色のグラフがニューラル翻訳で、これだけゲンと伸びたということで世間が騒いでいるわけですが、実は欧米言語間では、もともとかなりの高水準だったんです。それに対してアジア言語は、今回ニューラル翻訳によって伸びただけけれども、実はもともとの欧米言語の水準に近づいただけなんです。ということは、欧米言語、グローバルの翻訳市場がどうなったかを見れば、これから日本の翻訳市場がどうなるかが見えると。この10年間で、世界で起こったことが日本で起こることです。

市場の現状と見通し④

グローバル翻訳市場の推移



自動翻訳が高精度化しても伸び続けている

こちらはグローバル翻訳市場の推移でございます。どうなったかという、実は伸びているんです。だいたい年率数パーセントで伸び続けていると。自動翻訳がこれだけ実用化レベルまで到達しているのに、なぜ伸び続けたのかという、実は伸びてはいるんだけど、内容がガラッと変わっているんです。どう変わったかという、翻訳をするときに人間が1から翻訳するのではなく、まず先に自自動翻訳をかけて、その後でカスタマイズをしたり、人間が修正したりと手直しをする。それによって一定のクオリティで、ものすごく安く、ものすごく早く、膨大な分量の翻訳が実現可能になっているということです。

市場の現状と見通し⑤

イノベーションによる市場創造

新たな局面へパラダイムシフト

翻訳工程に自動翻訳を組み込むことにより

- 一定のクオリティで
- ローコスト&ハイスピードに
- 膨大な分量の
翻訳が実現可能に

新たな市場創造

自動翻訳後の人手による修正作業は、海外では「ポストエディット(PE:Post-editing)」と呼ばれており、
 ● 2017年にISO18587として国際標準規格が存在する業務にもなっている
 ● Webサイト、EC、クラウドサービスの翻訳を中心に爆発的に需要が増加中

先ほど「イノベーションによる市場破壊」と言いましたが、その裏で新たに生まれた市場がこのようになっています。欧米ではこの10年でどうなったかという、かつての翻訳というのは(費用が)高い、時間がかかる、面倒くさいということで、すごく限られた特殊なときにやる贅沢品でした。それがこの10年で、逆に翻訳をやるのが普通になり、ものすごく分量が増えました。企業にとっては、贅沢品から日用品になったということです。ちなみに機械翻訳をかけたあとに、人間がおかしいところを修正する作業をする人は、実はポストエディターという職種になっています。「後編集家」とでも言うのでしょうか。驚くべきことに、ポストエディターという職業として、ISOの国際規格になってしまっています。そのぐらい普及しているということです。Webサイト、EC、クラウドサービスの翻訳を中心に爆発的に需要が伸びたということです。